

## 課題解決型高度医療人材養成プログラム 事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔取組 1〕医師・歯科医師を対象とした事業  
 (1) 横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成  
 テーマ：病院経営支援に関する領域

整理番号		5
申請担当大学名 (連携大学名)	京都大学	
事業名	実践的医療経営プロフェッショナル教育事業	
事業責任者	医学部附属病院長 稲垣 暢也	
<b>事業の概要</b>		
<p>京都大学医学部附属病院を中心とした教育プログラムを整備する。教育は体系的教育と実践的教育に分かれ、安全管理論や経営組織論などの座学を中心とする前者は e-Learning を中心に提供する。後者はケース学習と PBL/FBL で構成され、現実の課題を解決する経験を提供する。教育対象は医師をはじめ、看護師・事務職員など病院経営に重要な役割を果たしうる各職種から若手を中心として受け入れる。遠隔教育を中心とすることで全国の履修生は現在のキャリアを中断せずに教育を受けることができる。修了生はたちまち現場のリーダーとなるスキルが身につくほか、将来的に医療経営のプロフェッショナルとして病院マネジメント層の一員として活躍が期待される。また社会医学系専門医制度とも連携し、専門医育成にも参画する。助成期間終了後も受講料収入や人材を求める医療機関からの費用負担により、教育プログラムを継続的に提供してゆく。</p>		
<b>推進委員会からの主なコメント</b> ○：優れた点等、●：改善を要する点等		
<p>○医療従事者を対象としたプログラムだけでなく、医療系学部学生を対象としたサブプログラム（集中講義）も提供する計画となっており、学部時代から将来の病院経営に関する意識を涵養する点に優れている。</p> <p>○病院経営支援という点では、経営の意思決定をする経営層だけでなく、その影響を受けて現場で働く若手医療職の経営管理に対する理解が不可欠であり、そうした課題に対応できる教育プログラムとして評価できる。</p> <p>○教育プログラム修了者と現時点の受講者の人的ネットワークの形成という卒後も含めた効果を視野に入れている点は評価できる。</p> <p>○e-learning を活用したオンライン学習の仕組みも整えており、全国的な水平展開など新しいコンセプトが盛り込まれており評価できる。</p> <p>●高度人材の育成と今後の日本の病院の海外展開を考えると、海外との比較や国際的な審査機関である JCI (Joint Commission International) など、広い視野を持った外部人材による公正、客観的評価の視点を盛り込むことで、より将来性がある教育プログラムになる。</p> <p>●経営人としての多角的な視点を付加する上で、非医療人、非大学人との緊密な連携を取り入れることで事業の充実を図ってほしい。</p>		